

2020年7月16日

関係各位

株式会社パテント・リザルト

【自動車メーカー】他社牽制ランキング 2019 トップ3はトヨタ、日産、ホンダ

株式会社パテント・リザルトはこのほど、独自に分類した自動車メーカーの企業を対象に、2019年の特許審査過程において他社特許への拒絶理由として引用された特許件数を企業別に集計した「自動車メーカー 他社牽制ランキング 2019」をまとめました。この集計により、直近の技術開発において競合他社が権利化する上で、阻害要因となる先行技術を多数保有している先進的な企業が明らかになります。

集計の結果、2019年に最も引用された企業は、**トヨタ自動車**、次いで**日産自動車**、**本田技研工業**となりました。

【自動車メーカー 他社牽制ランキング 2019 上位10社】

順位	企業名	引用された特許数
1位	トヨタ自動車	7,322
2位	日産自動車	3,032
3位	本田技研工業	2,919
4位	マツダ	1,039
5位	豊田中央研究所	779
6位	SUBARU	639
7位	スズキ	619
8位	三菱自動車工業	611
9位	ヤマハ発動機	592
10位	ダイハツ工業	366

1位 **トヨタ自動車**の最も引用された特許は「車両の自動運転制御装置」に関する技術で、日立オートモティブシステムズの3件、本田技研工業の2件など合計9件の審査過程で引用されています。このほかには「危険度算出装置」に関する技術などが引用された件数の多い特許として挙げられます。

2019年にトヨタ自動車の特許によって影響を受けた件数が最も多い企業は、本田技研工業（477件）、次いでデンソー（412件）、SUBARU（196件）となっています。

2位 **日産自動車**の最も引用された特許は「自己着火式エンジンの制御装置」に関する技術で、マツダの14件、トヨタ自動車の1件の、計15件の審査過程において引用されています。このほかには「危険状況警報装置」に関する技術や「バッテリー温調用モジュール」に関する技術などが、引用された件数の多い特許として挙げられます。

2019年に日産自動車の特許によって影響を受けた件数が最も多い企業は、トヨタ自動車（312件）、次いで本田技研工業（220件）、デンソー（214件）となっています。

3位 **本田技研工業**の最も引用された特許は「車両の操舵装置」に関する技術で、SUBARUの「周辺リスク表示装置」や「危険度算出装置」関連特許など、計6件の審査過程において引用されています。

2019年に本田技研工業の特許によって影響を受けた件数が最も多い企業は、トヨタ自動車（258件）で、デンソー（162件）、スズキ（91件）と続いています。

そのほか、4位の**マツダ**は「車両の進行方向の変更時に、後方からの接近物と衝突することを抑制する技術」、5位の**豊田中央研究所**は「オン抵抗の上昇を抑制できる炭化ケイ素半導体装置」が、最も引用された特許として挙げられます。

【ランキングの集計対象について】

日本特許庁に特許出願され、2019年12月までに公開されたすべての特許のうち、2019年1月から12月末までの期間に拒絶理由（拒絶理由通知または拒絶査定）として引用された特許を抽出。

本ランキングでは、権利移転を反映した集計を行っています。2020年5月29日の時点で権利を保有している企業の名義でランキングしているため、出願時と企業名が異なる可能性があります。

業種は総務省の日本標準産業分類を参考に分類しています。

また弊社では、本ランキングの詳細データを下記の通り販売しています。

【自動車メーカー 他社牽制カランキング 2019 ご提供データ】

▶納品物：以下のデータを収録したCD-ROM

1) ランキングトップ30社

自動車メーカーの被引用件数上位30社のランキング

2) 被引用件数上位100件のリスト

自動車メーカーの被引用件数上位100件

及び引用先の特許との対応を掲載

▶価格：50,000円（税抜）

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社パテント・リザルト 事業本部 営業グループ

Tel : 03-5802-6580

Fax : 03-5802-8271

ホームページ URL <https://www.patentresult.co.jp/>